



frostcraft

(フロストクラフト)



大 村市の静かな山の中、小さな看板を頼りに車を走らせると、その店があった。フロストクラフトはドライフラワーの専門店。柔らかな笑顔が印象的なオーナーの株元昭典（なほとあきのり）さんが出迎えてくれた。店内に一歩足を踏み入れると、思わず歓声を上げた。ドライフラワーに埋め尽くされた空間は圧倒的で、その美しさに一気に魅了されてしまった。見事なのは、花の色。どれも生花の美しい色合いがそのまま残されており、これがドライフラワー



真空凍結乾燥機

なのかと驚いてしまう。株元さんはその秘密を「真空凍結乾燥機（フリーズドライヤー）」のなせる技だと教えて



相談すれば、株元さんが好みに合わせて花を選んでくれる。

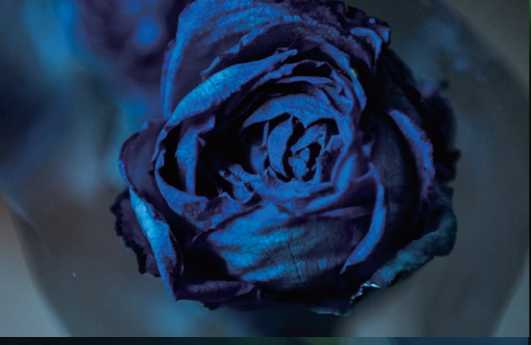
くれた。その名のとおり、この機械の中は真空状態となる。真空中では、水分を凍った状態のまま蒸発（昇華）させることができる。つまり、低温のまま乾燥できるため、生花の色素や繊維が変化せず元来の鮮やかな色合いや形状が保たれるという。全国でも真空凍結乾燥機を持つ店は大

変珍しく、株元さんはこの機械が手に入ったからこそ店を開こうと思ったと話す。以前勤めていた会社で、廃棄予定の機材や部品などを譲ってもらい、自身で一カ月ほどかけてこの大きな真空凍結乾燥機に組み立て直したという。もともと趣味で楽しんでいたドライフラワーをこの

機械で作れば、きっと良いものが出来ると考えてのことだった。フロストクラフトには百種類以上の花や葉があり、中には初めて見るものも。この中から単体で購入することももちろん、組み合わせさせてブーケにしたり、壁に飾る「スワッグ」にしたりと、楽しみ方はいろいろ。株元さんは独学で学んだというアレンジ力もさることながら、花の知識が深く、会話を通して花への愛情が伝わってくる。「子どもの頃、母の日には自分で選んだ花でブーケを作って渡していました」と少年のように笑う。ドライフラワーの魅力は長く楽しめること。リビングに飾ったドライフラワーを見るたびに、山でのひとときを思い出す。山の時間はずっと続いている。



ドライフラワーとは思えない鮮やかな色が印象的。



山の中で
待っていたのは
美しき花々



店までの道のりもワクワクする。



ドライフラワーであふれる店内。